

# Reversible



ポリクセニ・パパペトロウ (左写真) (世界のみままで)より2012年 ©Polixeni Papapetrou, courtesy of Michael Reid Gallery, Jarvis Donney Galeria

# Destiny

Australian and Japanese  
contemporary photography

## リバーシブルな未来

日本・オーストラリアの現代写真

Maree Clarke / Rosemary Laing / Polixeni Papapetrou  
Val Wens / Ishiuchi Miyako / Katayama Mari  
Hatakeyama Naoya / Yokomizo Shizuka

マレイ・クラーク / ローズマリー・ラング  
ポリクセニ・パパペトロウ / ヴァル・ウェンズ  
石内 都 / 片山真理 / 島山直哉 / 横溝 静

東京都写真美術館  
TOP MUSEUM [恵比寿ガーデンプレイス内]

2021.8.24|火|—10.31|日|

Co-curated by Natalie King | ナタリー・キング共同企画

開館時間: 10:00—18:00 入館は閉館の30分前まで  
休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館)、翌平日休館 会場: 東京都写真美術館 3階展示室  
観覧料: 一般700円、学生560円、中高生・65歳以上350円  
※小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料  
※本展はオンラインによる日時指定予約を推奨いたします。詳しくは、当館ホームページをご参照ください。

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、東京新聞  
特別協力: メルボルン大学  
助成: オーストラリア大使館、豪日交流基金、公益財団法人吉野石膏美術振興財団  
協力: 東京藝術大学





1



2



3



4



5



6

7



8

東京都写真美術館では、メルボルン大学の協力を得て、同大学教授ナタリー・キング氏との共同企画により「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展を開催いたします。

日本とオーストラリアは、それぞれ特有の歴史的背景や意識をもっています。しかしながら、想像をはるかに超える出来事が日々起こる現代では、私たちが国境を越えて共有できる経験や問題意識はますます多くなっています。このような現代の社会において、写真表現はどのような意味をもっているのでしょうか。

写真は、過去や社会と密接に絡み合い、私たちの時間をゆるがし、個人の経験と社会構造をつなぐ力をもっています。本展の出品作品は、過去と未来、経験と未知、記憶と忘却、生と死など二項対立のもの間を行き来し、その循環から、新たな視座・可逆的な思考へと導いてくれます。二国の作家たちの写真・映像表現をご高覧いただくとともに、本展が私たちの未来を考察する一助となれば幸いです。

1. マレイ・クラーク 〈ロング・ジャーニー・ホーム2〉 2018年  
©Maree Clarke, courtesy of Vivien Anderson Gallery
2. ローゼマリー・ラング 〈effort and rush #1〉 2015年  
©Rosemary Laing, courtesy of Tolarno Galleries
3. ポリクセニ・パバペトロウ 〈私を生む〉 〈私の心—まだ彼女のことでいっぱい〉 より 2018年  
©Polixeni Papapetrou, courtesy of Michael Reid Gallery, Jarvis Dooney Galerie
4. ヴァル・ウエンス 〈カワア・イジェン4 〈イジェン火山の噴火口、インドネシア〉 〈バニューワング〉 より 2018年  
©Val Wens, courtesy of Kronenberg Mais Wright, Sydney
5. 石内都 〈ひろしま #88 donor: Okimoto, S.〉 2010年  
©Ishuchi Miyako, courtesy of The Third Gallery Aya
6. 片山真理 〈in the water #008〉 2019年  
©Katayama Mari, courtesy of Akio Nagasawa Gallery
7. 島山直哉 〈2016年6月25日 高田町長砂〉 〈陸前高田〉 より 2016年  
©Hatakeyama Naoya, courtesy of Taka Ishii Gallery
8. 横溝静 〈That Day / あの日〉 2020年  
©Yokomizo Shizuka, courtesy of Wako Works of Art

#### 【関連イベント】

展覧会会期中に国際シンポジウムをオンラインで開催する予定です。最新情報は当館ホームページをご参照ください。

本事業はオーストラリア政府外務貿易省の豪日交流基金より助成を受けて実施しております。

This activity received grant funding from the Australia-Japan Foundation of the Department of Foreign Affairs and Trade.

事業は諸館の事情により、変更することがございます。最新情報は当館ホームページをご確認ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3  
恵比寿ガーデンプレイス内

Yebisu Garden Place, 1-13-3, Mita, Meguro-ku, Tokyo 153-0062  
Tel. 03-3280-0099 www.topmuseum.jp  
JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分  
当館には駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。



東京都写真美術館  
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

# イマドキの 野生動物

宮崎 学

Miyazaki Manabu  
Wild Animals Now



2021 8.24<sup>[火]</sup> — 10.31<sup>[日]</sup>

東京都写真美術館  
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

2階展示室

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 [後援] 信濃毎日新聞社 [協賛] ニコン/ニコンイメージングジャパン/東京都写真美術館支援会員 [協力] モンベル [開館時間] 10:00-18:00 (入館は閉館の30分前まで) [休館日] 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館) [観覧料] 一般700円/学生560円/中高生・65歳以上350円 ○小学生以下及び都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料。○本展はオンラインによる日時指定予約を推奨いたします。詳しくは、当館ホームページをご参照ください。

恵比寿ガーデンプレイス内 TOP MUSEUM

THE FUTURE IS ART  
文化でつなぐ未来、未来をつくる文化。

Tokyo Tokyo  
FESTIVAL

〈テン〉2017年 作家展

**東** 京都写真美術館では、「宮崎学 イマドキの野生動物」を開催いたします。

宮崎学(1949-)は中央アルプスの麓<sup>ふもと</sup>、長野県上伊那郡南<sup>みなかた</sup>向村(現・中川村)に生まれ、伊那谷の自然豊かな環境を活かし、1972年よりフリーの写真家として活動を開始しました。「自然界の報道写真家」として、現在も日本中の自然を観察しています。

宮崎は動物たちの通り道に自作の赤外線センサー付きのロボットカメラを設置し、撮影困難な野生の姿を撮影した「けもの道」のシリーズなど、哺乳類、猛禽類の撮影において独自の分野を開拓してきました。また、人間の生活空間近くに出没する野生動物や、外来動物の影響など、動物の生態を通して人間社会を浮き上がらせる社会性のあるテーマにも取り組んでいます。

シリーズ最新作となる「新・アニマルアイズ」では、「動物たちの住む森を動物の目線で見ると」をコンセプトに、動物たちの痕跡を注意深く読み解き、自作のロボットカメラで人間の目が及ばない世界をみごとに写し出しています。本展覧会は、半世紀近くにわたる宮崎の作家活動の軌跡をたどりながら、黙して語らぬ自然の姿を浮き彫りにしようとするものです。どうぞご期待ください。



シリーズ(死)より《冬・ニホンジカ》1993年\*

**宮崎学が読み解く  
「森の事件簿」**



《ツキノワグマのカメラマン、長野県、中央アルプス》2006年



《クマタカ》1972年\*



《フクロウのヒナ》1988年\*



シリーズ(死を食べる)より《ニホンジカを食べるイノシシ、岡山県》2012年



《ニホンカモシカ》1971年



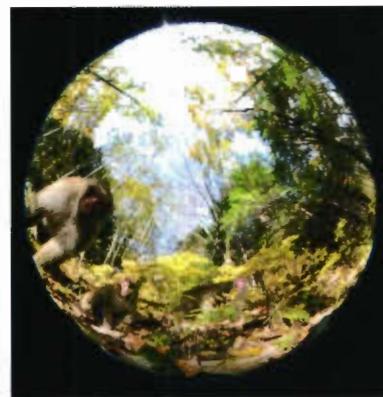
《ムササビ》2016年



《洗剤キャップを背負ったヤドカリ、鹿児島県》1995年



《鶴岡八幡宮の台湾リス、神奈川県》2000年



《ニホンザル》2020年

\*印は東京都写真美術館蔵、それ以外は全て作家蔵



撮影：飯塚 淳

**宮崎 学**(みやざき・まなぶ 1949-)

1949年長野県生まれ。自然と人間をテーマに、社会的視点にたった「自然界の報道写真家」として活動。「けもの道」を中心とした哺乳類及び猛禽類の撮影では自作の自動撮影カメラを駆使し、独自の分野を開拓する。近年では日本各地で問題となっている獣害対策のアドバイザーとしても活躍。1978年「ふくろう」で第1回絵本にっぽん大賞、1982年「鷲と鷹」で日本写真協会新人賞、1990年「フクロウ」で第9回土門拳賞、1995年「死」で日本写真協会年度賞、「アニマル黙示録」で講談社出版文化賞を受賞。他、写真集、著書多数。

**関連事業**

会期中に関連事業を開催する予定です。最新情報は当館ホームページをご参照ください。

※事業は諸般の事情により、変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。

[www.topmuseum.jp](http://www.topmuseum.jp)

**TOP MUSEUM**



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0099  
JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。  
当館には駐車場はありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。  
恵比寿ガーデンプレイス内

YAMASHIRO CHIKAKO

# 山城知佳子

Reframing the land/mind/body-scape

# リフレーミング

2021年8月17日[火]ー10月10日[日]

東京都写真美術館 | 地下1階展示室(恵比寿ガーデンプレイス内)

開館時間 | 10:00ー18:00 ※入館は閉館の30分前まで

休館日 | 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は閉館し、翌平日休館)

観覧料 | 一般700円/学生560円/中高生・65歳以上350円

小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料  
本展はオンラインによる日時指定予約を推奨いたします

事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページ等でご確認ください。

主催 | 東京都 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 日本経済新聞社

助成 | 公益財団法人 花王芸術・科学財団

TOP MUSEUM

THE FUTURE IS ART  
TokyoTokyo  
FESTIVAL

# 山城知佳子

Reframing the land/mind/body-scape

# リフレーミング

YAMASHIRO CHIKAKO

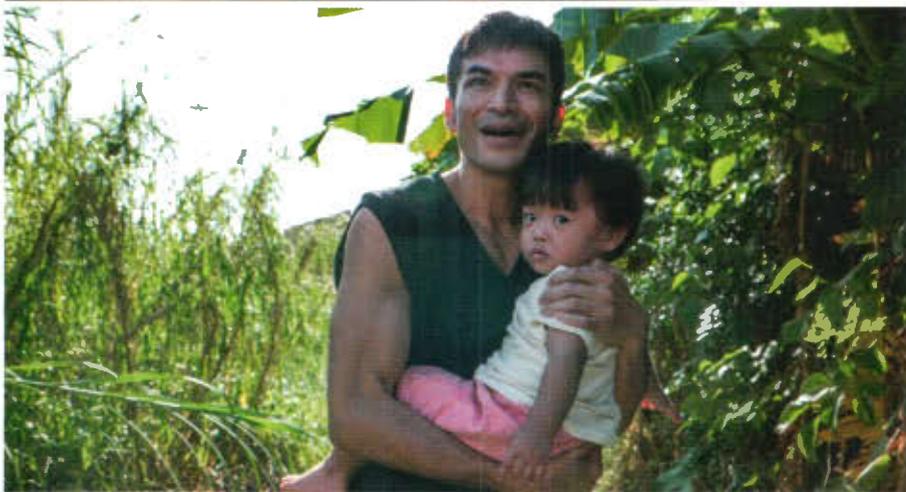
映像・写真を主たるメディアとして、2000年代から精力的に作家活動を進めてきた山城知佳子(1976-)は、生まれ育った沖縄の歴史や地政学的状況と自身との関係に向き合うことを通じて、見過ごされ聞き過ごされてきた声や肉体、魂を伝える作品を手掛け、国内外で高く評価されてきました。山城が生み出す映像は、見る者の身体感覚に訴えかけるイメージの豊饒さと詩性、そして同時代を見つめる批評的な視点を絶妙なバランスであわせ持つがゆえに、沖縄という特定の地域の問題に留まらず、より広い文脈での読み込みや解釈に開かれています。公立美術館初展となる本展では、初公開となる山城の最新作を、収蔵作品を中心とした過去の代表作品と組み合わせて紹介します。単に時系列に沿って作品の変遷をたどるのではなく、相互に共鳴する主題やモチーフの連なりを、展示室内を回遊しながら巡る構成とします。「リフレーミング」とは、ものごとを見ている枠組みを変え、別の枠組みで見直すことを指しており、写真・映像によって故郷沖縄の風景を新たな視点でとらえなおし見つめていくという、山城作品に通底する姿勢を象徴します。本展は、映像アーティスト・山城知佳子のミッドキャリア個展として、その作品世界を総覧するはじめての本格的な機会となります。

会期中に関連事業を予定しております。  
詳しくは当館ホームページをご覧ください。

表、1-3 ▶ リフレーミング 2021 [新作インスタレーション] | 4 ▶ BORDER 2002 シングルチャンネル・ビデオ 東京都写真美術館蔵 | 5 ▶ アーサ女 2008 ビデオ・インスタレーション 作家蔵 | 6-7 ▶ 黙認のからだ 1・2 2012 発色現象方式印画 東京都写真美術館蔵 | 8 ▶ 土の人 2016 3チャンネルビデオ・インスタレーション 東京都写真美術館蔵

図版すべて © Chikako Yamashiro Courtesy of Yumiko Chiba Associates

4、5、6-7



## 東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
Tel: 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

JR 恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。  
当館には駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

